

評価委員総合評価

研究課題名：(若手研究) GNSSによる火山性地殻変動の検出とその評価手法の高精度化

評価委員

委員長：高野清治

委員：齊藤和雄、竹内義明、水野孝則、小泉耕、尾瀬智昭、高野功、高薮出、
鈴木修、前田憲二、山里平、倉賀野連、岡部来

評価日：平成29年3月3日(書面開催)

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

GNSSによる火山性地殻変動の検出に関して、他火山に応用可能なGNSS統合解析システムを構築し、科研費若手研究の応募につなげた点で、当初想定していた成果が得られた。

良く練られた研究計画に沿って、着実に研究を進め、所期の成果を達成したことはすばらしい。来年度の科研費(応募中)や東大との特定共同研究の実施により、さらに研究を進めていただきたい。

日本だけでも監視の必要な火山は多いことから、さらに研究を進めて欲しい。

時間的制約から解析結果について十分に吟味するまでには至らなかったようであるが、解析手法の開発からデータ収集およびデータ解析までの一連行程を短期間で実施し、科研費に応募するための知見を得ることができた。

吾妻山では、活動の活発化に伴う地震活動、地殻変動が観測されている。本研究の中で、新たな解析戦略によって得られたGNSSデータと傾斜データ、地震活動を対比することができた。東北地方太平洋沖地震の影響を考慮した長期的な評価は今後の課題として依然残っているが、一定の成果を上げた。

東北地方太平洋沖地震のような大きな地震に引き続いての火山活動の変化についてはまだわかっていないことが多いが、本研究のような統合的なGNSS解析によって、大規模な地殻変動と火山活動の関係の解明への糸口となること、それによって、連続する災害への備えの一助となることを望む。

本研究は当初想定どおりの成果が得られており、また、研究目標の設定は概ね適切、研究体制の設定については適切であったと判断できる。

一方、以下のような指摘事項もあり、後年度の他研究等に活かすことを期待する。

- ・気象庁と国土地理院の GNSS データを統合して解析する手法を確立したことは意義があるものと思う。ただ、それが従来とくらべてどのような効果をもたらしたのか明確にすべき。